

雄武町ワールドカフェ「まちづくり短歌を創ろう！」 実施要領

1 ワールドカフェとは？

ワールドカフェは1995年にアメリカ合衆国のファニータ・ブラウン（Huanita Brown）とデイヴィッド・アイザックス（David Isaacs）が偶然の機会に行う状況になり始まったといわれています。

当時二人が、知的資本経営に関するリーダーを自宅に招いた話し合いの場において、ゲストがリラックスしてオープンに生成的な話し合いを行えるように、様々な工夫を凝らした空間で話し合いを行った結果、創造性に富んだダイアログを行うことができたことが始まりとなります。

その後、想像できないほど多くの知識や洞察が生まれたことに感銘を受けた二人が、その経験から主体性と創造性を高める話し合いのエッセンスを抽出してまとめたのがワールド・カフェです。「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考えに基づいた話し合いの手法です。

- ・本物のカフェのようにリラックスした雰囲気の中で、テーマに集中した対話を行います。
- ・自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる場の一体感を味わえます。
- ・メンバーの組み合わせを変えながら、4～5人単位の小グループで話し合いを続けることにより、あたかも参加者全員が話し合っているような効果が得られます。

（WEBサイト「World Café.net」から引用）

2 まちづくり短歌づくりとは？

まちづくり短歌は、雄武町のまちづくりをテーマとする、あいうえおの五十音ではじまる七五調の短歌です。

この短歌づくりという創造的な活動を通じて、雄武町民が、雄武町の地域資源や生活課題を再認識し、将来の方向を再確認します。

短歌の文案例

うみからの
風がやさしい
夏の日に
子どもと過ごす
白い砂浜

豊かな自然の中でゆったりと子育てができるまち、というアピール

いつか来た
雄武の町に
また来たい
友を想って
植樹に励む

美しい生活環境づくりを進め交流人口を増やそう、というメッセージ

あさはやく
地まきの準備
余念なく
つくり育てる
雄武のほたて

これからも雄武の漁業は「つくり育てる」を大切に、というメッセージ

3 なぜ「短歌づくり」なのか？

短歌づくりやカルタづくりは、古くて新しい協働活動であり、言語活動力を高めるために、小中学校の授業で積極的に採り入れられるほか、「短歌ワークショップ」の取り組みや「方言カルタ」「健康カルタ」「国際交流カルタ」などのテーマ型カルタの創作が生涯学習の場などで日々行われています。

10年に1回の総合計画（基本構想）づくりの機会に、「七五調の短文」「『あ』から『わ』まで44枚を1つずつ作る」「まちづくりに関係する内容にする」という制約の中で、町民が郷土について考え、想いをめぐらせ、協働のきっかけにしたいと考えています。

また、できあがった44の「まちづくりフレーズ」やその検討過程で出た意見を新しい総合計画の施策に反映するとともに、「まちづくりフレーズ」そのものを、今後の雄武のまちづくり活動の標語や戦略コピーとして活用することが期待されます。

毎回完結の全2～3回のグループワークを予定しています。

第1回会議の流れ

時 間	概 要	席配置
開始～10 分後	開会・あいさつ・手順の説明	初期グループ
～20 分後	班ごとに自由討議	初期グループ
～35 分後	席替えし、新しい班で自由討議	第2期グループ
～55 分後	席替えし、新しい班で自由討議	第3期グループ
～70 分後	もとの班に戻り、清書	初期グループ
～110 分後	発表・会場全体での意見交換	初期グループ

